



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2019年11月1日

11月 第214号

奈良・人と自然の会



< 子供たちが収穫した秋の実り（古代米 さよむらさき） >



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることが出来ます

URL <http://www.naranature.com>



壮春力歩	1	ならやま投句箱	8
Monthly Repo. ならやま	2	字遊字感	9
私のふるさと	3	ならやまプロジェクト	10
里山の今	4・5	行事案内 1	11
朝日親と子の自然環境教室報告	6	行事案内 2	12
佐保台小学校稲刈り報告	7	幹事会報告・編集後記	13



一万二千歳の知恵を結集

図録「ならやまの木々たち」

会長 鈴木 末一

図録「見つけよう自然のなかまーならやまの昆虫と植物たちー」は、今も口伝えにより、波紋はゆったりと広がりを見せています。その要因はどこにあるのか、と考えてみました。

市販の図鑑類とは違って、分類(項目)の豊かさ、ユニークさにあるようです。昆虫も植物も写真はプロの写真家ではなく、会員が撮影したものであるということが大きいことはいまでもありません。図録を広げた方が、ならやまを訪れたことがなくても、昆虫や植物を自分自身が見つけたような気分になるのではないのでしょうか。

「出会った時の感動のようなものを感じとることができるのです」とおっしゃる方もおられます。その他にもいろいろと貴重なご意見をお寄せいただきました。

丁度1年前の10月末、トヨタ環境活動助成小規模プロジェクトの本選考を通過し、助成決定の知らせを受けました。先行すること2か月前から編集準備委員会を立ち上げ、基本構想を練り、データ収集に取りかかっていました。そのことが功を奏して、編集委員の皆さま方による編集作業も拍車がかかり、順調に進めることができたのでした。

以上のような一連の経緯と経験を踏まえつつ、第二弾として、図録「見つけよう自然のなかまーならやまの木々たちー」を発行するための準備を始めることになりました。

昆虫や植物とは異なり、1年以上のスパンで観察していかなければなりません。春夏秋冬四季の移ろいゆく姿を記録することが求められるでしょう。私自身にとっては、ブラックボックスの部分も多くありますが、樹木の検索について考えてみました。

- 1、概観・外観(樹形、常緑/落葉)
- 2、葉の特徴(単葉/複葉、葉の付き方、葉の大きさ、葉の形、葉の縁、葉脈、側脈)
- 3、樹皮の特徴(なめらかさ、表面の特徴、裂け目など、樹皮のはがれやすさ、トゲの有無)

4、花の特徴(花の色、花の形、花弁の数・花冠の裂数、花期)

5、果実の特徴(色、形、果期)

以上のようなことが考えられるのではないのでしょうか。

編集委員にお願いしました会員の皆さまには、樹木に関する知識が豊富な方々もおられます。そのご意見を尊重しながら、編集方針を固めていきたいと考えています。

今回も子ども向け図録に変わりはありませんが、大人の方々にとっても価値あるものに仕上げたいものです。

つきましては、会員の皆さま方にお力添えをお願いしたいことがあります。例えば、写真撮影についてです。1年以上にわたって継続して撮影していただければ大変ありがたいです。アングルなどの具体的な撮影方法は、樹木に詳しい委員さんから手ほどきなどをしていただく予定です。樹木に興味、関心をお持ちの方は、遠慮なくお手を挙げていただき、お力添えをお願いいたします。

「成功の本当の秘訣は熱心さである」。アメリカ・クライスラー社の創設者ウォルター・クライスラーの言葉です。情熱に燃えた多くの会員の皆さまと一緒に、魅力満載の図録「見つけよう自然のなかまーならやまの木々たちー」を編纂しようではありませんか。

前回同様に、表紙デザインの公募を初めとして、索引のこと、目次の構成や文章表現、はじめと結びのことば、カット、Q&Aなど、各ジャンルについて、アイデアを出し合うとともに、分業・協業で取り組みたいものです。

2020年4月から公募される「トヨタ環境活動助成国内プロジェクト」への申請を目指し、先行して編集準備委員会を立ち上げるわけであります。助成対象期間は、2021年1月からです。もちろん、現段階では助成が受けられるかどうかは未知数です。情熱のあるところには、必ず天からのほほえみが注がれると信じています。樹木編の完成には、1年以上の長期作戦が必須となります。

ならやまプロジェクトを天声人語は、当会を「知恵と経験は一万二千歳です」と評してくれました。多くの方が、お手を挙げていただけることを期待しています。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

9月26日(木) 活動 晴れ 70名+4名

実りの秋も真っ盛り。ならやまでも野菜の収穫はもちろんのこと、果物の初物もどンドン口に入る時期になった。打ち合わせでは新しい助成金の紹介を始め、10月のイベントの連絡等が行われる。近大生4名。里山Gは枯死木の伐採と薪割り、エコGは葉



菜類の種まき、そして景観Gは実りの森の草刈りを行う。またピオ班は東池の草刈り、花班はウマノズクサの撤去、そしてパトGは観察路の整備と2コースのパトロールとメイン階段工事を行う。果樹班はブルーベリーの土壌調査に取り組む。

10月3日(木) 活動 晴れ後雨 71名+1名

秋らしくなるが、午後になり雨が降り出す。そのため終礼も早々に切り上げ本日の活動は終了。今日は恒例の協働活動日になり、水田のコナギ取



りが中心になる。今月実施予定の2つのイベントに向けての準備で、手が抜けない。奈良シニア大学関係者1名来訪。里山Gはイベント準備で里山の遊具の設定、エコGは水田のコナギ取りと収穫が終わった野菜の撤去、そして景観Gは稲架用の竹の準備を行う。またピオ班は東池の草刈り、花班はジャーマンアイリス園の草取り、パトGは3コースパトロールとメイン階段補修を行う。こちらの方はほぼ完成したようだ。

10月10日(木) 活動 晴れ 79名+27名

佐保台小の稲刈り。21名の児童が参加。今年で11回目を数えた。児童にとっても良い思い出になったことだ



ろう。打ち合わせではこの日曜日に実施予定のイベントの件や前述

の稲刈り、その他新入会員の紹介が行われる。里山Gはイベント準備と下草刈り、エコGは稲刈りと野菜類の追肥と草取り、そして景観GはBCの草刈りと機械類のメンテを行う。またピオ班は水生生物調査、花班は葉ボタンの植え替え、そしてパトGはパトロール4コースとメイン階段の補修に取り組む。いよいよ完成も近いようだ。

10月13日(日) イベント 晴れ 32名+65名

台風も心配されたが、無事「朝日親と子の自然環境教室」の3回目が終了。今回も稲刈りの体験学習を中心に里山遊びや立ち木伐採作業に取り組み、一日目いっぱい活動となる。昼食には恒例となった豚汁のほか、焼き芋が出され、大変好評だった。

10月17日(木) 活動 曇り 70名+14名

台風の大きな影響もなく、普段通りの活動が進む。打ち合わせでは新入会員の紹介やこの日曜日に実施されたイベントの報告が行われる。新入会員1名。そして奈良県高等学校生物教育会の会員11名が来訪。里山Gは枯木伐倒と薪割り、エコGはイベント準備と葉菜・根菜の間引き、移植、そして景観Gは彩の森の草刈りを行う。またピオ班はメイン階段調整工事の手伝い、花班は花なすの収穫、そしてパトGは1コースのパトロールとメイン階段の調整工事に取り組む。その他果樹班はグミの剪定が主な活動になる。



わたしのふるさと

木村 慎司郎

山陽本線尾道駅下車。中国山地を横断して松江へ抜ける出雲街道（石見銀山街道）を北へ約 16 キロ。瀬戸内海沿岸より峠一つ越えて東西に走る、古代山陽道と称される往還と交差する一帯が生まれ故郷・御調（みつぎ）郡市村。

昔より周辺の川沿いの村々の、中心的存在であった。やがて村は御調町と変り、公立みつぎ病院の地域活動によって福祉の町として知られるようになった。今は平成の大合併により尾道市御調町。散在していた穴居や古墳跡の高台には、尾道の奥座敷「天然温泉尾道ふれあいの里」と呼ばれる施設ができています。道の駅「クロスロードみつぎ」も出現。

この周りで人々は、書き初めを燃やし残り火で餅を焼く「とんど」や、鉄球を四方から引っ張って各戸の前で打ちつけてはやす「亥の子」等の郷土行事を続けてきた。

自然に包容されてゆったりと過ごせた面でふるさとが田舎であったのは恵まれていた。山や川や田んぼ、野焼きの籾殻の匂いや藁屋根が何と身近にあったことか。カワセミは同じ川辺の隙間を出入りし、納屋で大きな抜け殻を残した蛇は、今でも脱皮を続けているだろうか。



夕方、茜色に染まる西空を背に帰巢する鳥の群が、わが家の屋根を越えて裏山に吸いこまれる。物心ついた時から繰り返された眺めは、夕焼け雲を見るたびに、自ずとふるさとの原風景と重なり

思い出が増幅される。入日に薄れゆく菜の花畑など、童謡の世界にもなぞらえられる素朴な光景だった。

田畑を飛びまわるのは雀。冬、落ち米を求めて、農作業の終わった納屋の中まで入りこむ。戸を締めきって、逃げまわる雀を追いつめてつかまえることがあった。包みこんだ掌中で震える、暖かな羽毛の感触が忘れられない。ものの哀れさを、いとおしさを、かすかに感じとりはじめた頃か。

尾道は子どもたちにとって憧れの街で、滅多に行くことはなかった。春、父親に連れられ今は廃墟となっている尾道鉄道で、当時から桜の名所であった千光寺公園へ花見に行った。その時、尾道水道を圧するように停泊していたのは、捕鯨母船・凶南丸。巨体への驚きと、凶鑑通りの特有な船尾の開口部に、少年の心は高揚し続けたものだった。吃水線で黒と茶に塗り分けられた重厚な船腹に、まつわるように舞い落ちる桜の花びらは、確かに行く春を惜しむ風情として眼に映ったものだ。

家の眼前には朝夕見上げた雲雀山。山上には、戦国時代、城主が毛利に併合されて転出、廃城になった雲雀城址がある。「天然温泉尾道ふれあいの里」より高所。季節により城跡から見下ろす盆地に川霧が立ちこめ、四方の山々が、雲海に浮かぶ小島に見える時がある。

その時、霧に隠れた地には、長い年月を経て滲みこんだ光景が出現しているのではなからうか。

古代山陽道を、都で雇役を終えた人々が西下する。おぼろげな伝説に揺らぎながらも、承久の乱の後鳥羽上皇は北へ漂い、銀山を發った荷駄の列は街道を南下して尾道港へ。

御調川沿いの往還を東へ向う武者の一団は近隣の久井羽倉城主・末近信賀。軍監、援将として備中高松城へ赴く。

幻がふるさとに現われては消える。

ふるさとへの思い出は云い表すこともできず、言葉は薄れゆく。ただ「ふるさとは 語ることなし」の語句が脳裏をめぐる。

里山グループ

阿部 和生



エコファームグループ

古結 博邦

10月3日に実施された里山林内の一斉協働作業「下草刈り」は新しい試みで素晴らしいと思います。「ならやま」における山林の面積は広く、多くの皆さまが関与することはいろんな視点から関心を持つ機会となり、全体を俯瞰し里山への理解を深める事に繋がるでしょう。里山林も刈払機による下草刈りと常緑樹の伐採が日常の活動の一部となることは必須です。講習を経て鉋の使用普及も広がると良いなと思います。チップパー機の購入があり併せて整備が加速されることでしょうか。山林の協働作業は一過性でなく季節に応じた企画・継続が良い循環を作るのではないのでしょうか。

愛知県「トヨタの森」の里山保全モデル林(15㍍)を10年間指導された只木良也先生から実施内容をお聞きし、花鳥画家として高名な上村淳之先生による京都南山城村における「花鳥の郷」里山保全の活動も話されました。共通していることは、「都市近郷の雑木林は人が喜んで入れる明るい落葉高木樹、多くの一般社会人が自由に出入りできること」でした。もちろんエコモニタリングを継続して行ない、里山の持つさまざまな公益的機能を発揮する整備活動が伴うことは必須です。

世界的企業のトヨタ自動車が「自然あってこそ人間社会、成功企業が利益の一部を自然に還元」をうたい、畑違いの自然を相手にする意外性に驚きます。南山城村の活動は、ゴルフ場開発計画が挫折し管理放棄された里山を、上村先生が理事長となり「人も鳥も喜んで遊べる“花鳥の郷”をめざす」と理念を掲げた活動です。ため池を作り餌木の低木林と草地を計画し自然水による水洗トイレを設置するという本格的取り組みです。散策マップには「ゴミは持ち帰りましょう、足元に気をつけて登山・下山してください」これだけの言葉でササユリが咲き、蛍が飛び交う里山が人々に解放されています。“ならやま”一帯も、地域の人々が自由に出入りする里山を目指し、そのためのさまざまな方策を考え、開放的な場所になることを期待しています。

この4月からエコファームGに入った私ですので、近況を少しだけ書きます。

初めに私事ですが、農家の次男坊として生まれた私は、田植えシーズンになると耕運機の「重り」代わりに乗せられていた記憶があります。しかし、当時の私は実家の農業を手伝うことなく就職で静岡に行ってしまいました。その後もこの平城山へ来るまでは畑の土と接する機会もなく生活していました。今思い出すと、若い頃に送られてきた宅配便に野菜が入っていると、「野菜はこっちで買った方が安いから入れなくていいよ」と電話の向こうの母に言っていたものです。

それが、最近になってその味が懐かしく思うようになり、ここで採れる新鮮な野菜を楽しく料理していただいています。当然、メニューや味付け担当は奥さんですが、私も下準備や食器洗いでは料理に関わっています(自主的にですよ(笑))。

一 耕運機との再会一

さて、エコファームでは種まきから収穫までを一通り通した経験をしたとは思いましたが、この1年は都合で休むことが多く、周りの皆さんにはご迷惑をお掛けしています。そんな私ですが、参加したときには皆さんから親切に教えてもらいながら楽しく活動できています。

そんな中、中西さんに声を掛けてもらって耕運機の操作を習うことになりました。その日から中西さんが私の耕運機師匠です。



まだまだですが、耕運機を使う人が一人増えたことを報告しておきます。

景観グループ



パトロールグループ

一息ついたところで考えてみた

千載 輝重

ようやく酷暑の長い夏が過ぎ、雑草との戦いを終えて実りの秋をむかえたならやまの里に会員の笑顔があふれる。気持ちのいい季節。日本の四季は節目節目に休息を与えてくれる。

毎週 80 人が集まる大きな活動集団。でも一日平均だと 10 人。10 人が暮らす人里をイメージするとちょっと守備範囲が広すぎるようにも思える。「ベースキャンプ周辺」「ならやま里山林」「彩りの森」「実りの森」「佐保自然の森」「ならやま自然の森」。夏には少し放っておくと雑草が繁茂する。目障り過ぎるので刈払機を振り回すが、近年のように夏が長くなるとますます草刈りは追いつかない。夏を越すのは大変だ。

一昔前の 10 人くらいの人里ではどのような暮らしが里山を支えたのだろう。根っこには、もうちょっと楽をしてゆったりとした里山活動ができたなら、という気持ちがこんなことを考えさせるのだが。でも多少「無理」もしないと「明るく楽しく」もないのかもしれない。

これまで先輩たちが苦勞して整備してきたならやまの里。私たちの維持すべき、または維持できる里山イメージをもう一度考えてみる必要がある。

なんとかサボる言い分けができないかとネット検索してみたら、「草刈りはやりすぎに注意」という記事があった。植物は夏から秋に開花結実するものが多く、できれば生物多様性も考慮してこの時期（7-9 月）を避けて 5-6 月と 10-11 月に草刈りをするのがいい。また、雑草の成長点の高さも考えて、一律にやらずに長めに刈る部分と短めに刈る部分を考えるべき。とのこと。土や石で刈刃を傷めないためにも、むやみに短く刈らずに高さ 20cm くらいの草原もいいかも。

そんなことしていたら、繁殖力の強い雑草に対抗できまへん。やっぱりシャカリキに草刈りやらんとあかんかなあ・・・

無理をせずに楽しむにはもうちょっといろいろと勉強して工夫しなくてはならないのかも。

微力な自分がパトロールグループに参加して

山崎 久平

もともと私は田舎育ち（島根）で身体を動かすことは嫌いではありません。きれいに手入れされた里山、里道が近くにあり、歩き回ったものです。娘が中学生になった時です。自分が昔歩いて楽しかったことを思い出して、里山を歩き始めました。その里山は、今は誰の手入れもなく、道はイノシシによってずたずたに崩され、道もなく、木や枝をつたいながら前に進まなければなりません。人の手が入らないと、すぐに荒れてしまうのだと思いました。

このたび最初に、ならやまのベースキャンプに来て、目の前にある手入れの行き届いた里山を見た時、昔見慣れた美しい里山だと思いました。と同時に、頭に浮かんだのは、自分が昔、子供をつれて楽しく歩き回った、里山の道の変わり果てた姿を見た時の思い出でした。人の手が入らなくなると変わってしまう姿だったのです。

自分には、経験も技術もない。今、パトロールグループに参加させてもらっていますが、まずは懸命に皆さんの後について行くことです。パトロールで観察路を回り、下草と熊笹を少しずつ刈とり、丸太階段の修復、杭打ちをします。

パトロールで回る観察路の周辺は、四季、変化します。冬、枯れ葉の林は暖かくなると若葉を出し、季節が移るに従って葉の色が変化します。草木が花を咲かせます。

パトロールで体を動かし、少し疲れるが気持ちよい。

観察路を歩く人に、自然の変化の面白さ、美しさを味わっていただける環境を整備して、少しでも楽しく感じてもらえるように。自分の力は微少ですが、歩かれた人が、今日は歩いて良かった、と感じてもらえたらうれしいです。



朝日親と子の自然環境教室 報告

千載 輝重

10月13日(日)、「朝日親と子の自然環境教室」が開催された。超大型台風19号の襲来にやきもきしたが、気がかりだった稲の倒伏や里山林内の倒木もなく、当日は雨上がりの好天に恵まれ強い日差しもない最高のイベント日和となった。

教室側参加者の親子53名、朝日新聞社関係者1名、シニア自然大学校スタッフ10名、本会員32名に加えてシニア自然大学校講座生が1名参加されて総勢97名が集まった。

10:30、主催者であるシニア自然大学校の挨拶に始まり、会長挨拶、イベントスケジュールの説明、安全上の注意の後、全員での記念撮影を行い、まずは稲刈りへ。



11:00、鈴木会長から稲の刈り方や結束方法について説明を受けた後、水稲刈りと陸稲刈りの2グループに分かれて稲刈り開始。水稲刈りは前日の大雨によるぬかるみを避けて、比較的乾いていた西側から一方向に刈りとり、結束、稲架掛けを行い、陸稲刈りと交替することで進めた。

はじめは鎌の扱いがたどたどしかったが、慣れるに従い快調にスパッと刈り取ることができる子供たちが増え、また、童心に帰った親たちも逐次参戦、歓声とともに稲束が次々と積み上がった。稲架掛けも順調に進み、11:45終了。



お昼は、ならやま名物の豚汁、さらにはデザートとして朝から準備された焼きたてサツマイモも、すべて完食。10月13日はサツマイモ記念日だという紹介もあった。子供たちにとっては珍しいし

そジュースも好評。直前に見本配布された図録「見つけよう自然のなかまーならやまの昆虫と植物たち」を見ながらの楽しい昼食だった。

12:35、ジュズダマブレスレットを紹介し、その元の姿を観察。みんな興味津々でたくさんの実を採取したり、付近のカブトムシの幼虫も見つけて喜ぶ子供もおり、昼食後のゆったりとした時間を楽しんだ。

13:00から里山へ。全員がロープで急斜面を登り切った後、2つのグループに分かれて立木伐採と里山遊びをする。急斜面は大人たちの方が息を切らしていた。



ノコギリや枝切りハサミの使いかたを聞いたあ



と、一人1本を目安に伐採し枝を切り落として整理する。道具を使うことが初めての子供も親

やスタッフの助けを得ながらも、切り倒したときの得意げな顔はなんともいえない。大木に挑む親子もおり、スタッフが慌てる場面も。里山遊びでは平均台、ブランコ、ミラーウォーク、それに・・・よく見ると果敢に木登りに挑むのは母親！！それぞれ「もっと」という想いを残しながら下山。

14:10、福田さんからの講話。随所に面白クイズを取り入れて正解者には賞品としてサツマイモを提供するという工夫もあり、特に子供たちには大変好評だった。

最後にお土産にジュズダマブレスレットと鹿の折り紙を参加者全員に手渡しして予定通り15:00終了。名残惜しいお別れ。体験を終えた子供たちの満足した笑顔と、イベントを成功させたスタッフの笑顔が重なる。

スタッフの皆さん、ありがとうございました。

【佐保台ファームの取り組み】 佐保台小学校稲刈り体験学習

三瀬 英信

10月10日(木)佐保台小学校5年生による“稲刈り体験学習”が行われた。なんと！今回で11回を数えた。子どもたちは学校の行事の都合で11時前になったが、担任の武内先生の先導で21人整然とならやまにやってきました。西村教頭、神戸育友会会長(他一名)も同行され子どもたちを見守った。



子どもたちが水田の脇に到着して、直ちに鈴木会長のあいさつと今日の全体のプランと具体的な稲の刈り方について説明が行われた。稲(株)の持ち方、のこぎり鎌のあてがい方と引き方、刈り取る姿勢、刈り取った稲の置き方と束ね方など分かりやすく丁寧に説明し、その要領はさすが本職、今もご健在と感心するばかりだった。



6月13日に子供たちが植えた、か細い苗は順調に成長し子どもの手に余るほどの株となった。今年もコナギには手を焼いた。エコメンバーで二度にわたり除草を行った。暑いさなかの水田作業はご老人ならずとも大変な仕事であった。にもかかわらず全てを取り除くのは大変むつかしく、コナギ除草の協働活動日まで設けて頂き随分すっきりした水田となった。日頃は裏方に徹する事務局長もこの日ばかりはと腰痛を押して奮闘していた。



今年は水稻の作付面積が約半減したこともあり鈴木会長とエコグループでは詳細な稲刈りプランを作成しグループ討議をして準備してきた。引き続き行われる「朝日親と子の自然環境教室」との水田

の配分や、稲刈りから稲架けの竿づくりまでイラスト入りの計画書を会長が仕上げたグループに徹底し、準備万端本番に備えた。

“いざ！刈り方はじめ！”。1-2班は西から、3-4班は東から西へと稲刈り開始。前列の5人が6株を刈り、3株刈って揃えて置く、次の3株は根元の方をクロスさせて前の3株に揃えて乗せる。しっかり束ねるには置き方が大事だが後ろ向きでの作業でうまくできない子どもが多い。次の5人がクロスさせた束をしっかりと束ねる。前列と後列が交代し同要領で刈り取っていく。刈り取りが進むうちに要領もよくなりあっという間に東西が合流して刈り取りが終わった。



次は、稲架けだ。この日の朝に会員のみなさんで竹を組んだ稲架け用の竿が準備されていた。

束ねた稲を手にとり子どもたちが稲架け用竿まで運び、束ねた稲を竿に架けていく。クロスが出来ていない束も多く簡単なようで子どもには難しい作業だ。ここでも鈴木会長の檄が飛ぶ。



“二つに分けて、しっかりかけてよ～、間を開けないように～”。

稲刈り、稲架けを終えた子どもたちは生き生きとしていて達成感を味わっていたようだ。

5月に会長による佐保台小学校での水稻に関する事前学習(日本の水稻の歴史や食糧事情など)に始まり、6月13日の田植え、今回の稲刈り、続く10月24日の脱穀と、一連の水稻栽培学習は、まさしく「体験に基づく生きた学び(学びの本質)」であり、子どもたちにとっては大変貴重な経験だったと思われる。

ならやまトーク・投句 錦秋編

《ならやま秋のイベント》

ならやまに稲刈りつてゐる匂ひかな 鈴木末一

(田圃で子供たちの稲刈りが始まる。切り株の甘い香り、稲穂の咽るような匂いが立ち込める。それは懐かしい昔の記憶まで呼び起こす)

秋の田の慣れぬ鎌手に子らと親 岡田安弘

(親子自然教室の稲刈り。「気をつけてね」そつと呼びかける母親)

稲を刈る子らおずおずと足運ぶ 八木順一

(田の柔らかい泥に思わず腰が引ける、切り株に足を載せてと助言が飛ぶ)

お椀持ち並ぶ笑顔や秋和む 八木順一

(刈り終えてほつとする昼食。並んで豚汁を受けるお椀に笑顔が映える)

黄昏のひかりに染まる稲架禰 藤原勲

(すつかり刈り終った田圃、ハサ掛けの稲が夕日に黄金色に輝く)

山の秋親も喜ぶ遊具かな 岡田安弘

(はしごを使った木登り。丸太渡り、子らも母までも嬉々として挑む)

ミラーウオーク梢も空も秋の色 古川祐司

(顎の下に持った鏡を見ながら里山を歩く。さながら空中散歩の気分)

《日々好日》

秋桜やしなだれかかり通せんぼ 岡田安弘

(畦道を塞ぐように咲き誇る。折れないよう優しく手で払い行く)

佐保帰り今日の秋稼を病妻の問ふ 小山喜与男

(患う妻を気遣う夫に、平城山の秋の稔りは如何と労う一言)

十年の往時茫茫蕎麦の花 古川祐司

(蕎麦を植えて十年、今年も一面に蕎麦の花が咲く「年年歳歳花相似・・・」)

孫守や「あっち」と言われ秋の声 岡田安弘

(お利口さんと口を出し、3歳児に拒まれる。喋れる様になったのは嬉しいが)

楕円球ワールドカップ開催 感激のあのシーンか、視聴率も史上最高 藤原勲

(ラグビーワールドカップ開催。感激のあのシーンか、視聴率も史上最高)

巨いなる木犀匂ふ無住の家 古川祐司

(無住となり放置され屋敷の庭、大きくなり過ぎた木犀が殊更に匂う)

蒼剃りの案内の僧や萩の寺 古川祐司

(歴史の下見に元興寺へ、石仏と萩と青ぞりの僧の頭、対照の爽かさ)

投句歓迎 (古川まで)



亡き友を偲ぶ

岡田 安弘

食べ物に無頓着な私には、塩は調味料のひとつに過ぎない。今夏は異常に暑かった。ならやま活動日の前夜、嫁が「ポカリはやめて、塩を溶かした冷水を持って行くように」と言う。すっかり塩の効用を忘れていた。

そんな深夜、テレビをつけた。標高3,300mのアンデス山脈が映り、ナレーターが語る。「ペルーのマチュピチュ遺跡へ向かう村に塩の棚田が広がる」「1億年以上前は海。地殻変動で隆起し塩の層が湧き水として村に流れ出る」「インカ帝国時代から受け継がれる天然の恵みだ」。しばし、天空の白い世界に見とれる。

< 塩に代用品はない >

塩はかけがえのない食品だと教えてくれた親友がいた。食全般に精通し、高校時代に早くも「調理の上手下手は塩加減」と言っていた。好きが高じて銀行員を3年で脱サラ、にぎり飯屋を開いたほど。同業者が現れる前の時代だ。大はやり。しっかり稼ぐ。後半生は勤めにつかず、株の投資で過ごした。

熱弁がよみがえる。「塩加減は料理だけではないよ。塩こそ健康のバランスに欠かせない。足がつるのは汗で塩分、つまりナトリウムが不足したからや。取り過ぎても体によくない」。これは覚えていたが、他にもあったはず。

古い日記帳に書きとめていた。「体を動かすとき脳が命令を出す。その信号をつかさどるのが塩分」「食いは植物性と動物性に分類される。砂糖や酢は植物性。全食品のうち唯一、どちらでもないのは塩だけ。人工的に作れないんだ」。そういえば砂糖や酢には代用品がある。塩に代わる食品はないらしい。言い忘れていた。先を見る目のある男だったが、がんには勝てなかった。3年前、75歳で旅立つ。黄泉の国で“塩梅”やっている姿を思い描く。冥福を祈る。

パーキンソン病と10年にわたり闘った元記者が、8月に亡くなった。78歳だった。彼が2年前、

社内報に寄せた「OBの近況報告」が手元にある。

「68歳の朝、目覚めたら歩けなくなっていた。重度のパーキンソン病だ。いまは末期段階で寝たきり。人生の灯が消えかかるにつれ、ジャーナリスト魂だけが燃え盛る。難病を取り巻く制度、無責任な政府の施策。患者側からの発信は、まず見られない」。

著書「私もパーキンソン病患者です」と「老夫婦が壊される」の2冊は全ての患者を背負うかのような気迫だ。といっても、すらすら書いたわけではない。ペンがしっかり持てない。原稿用紙の字の半分は読めない。編集者が何回も問い合わせで埋めていく。それも薬が効いている1日に2時間だけ。その出版社が倒産した。新たな出版先を執念で見つける。すでに字は書けない。パソコンも扱えない。携帯電話の狭いキーボードなら何とか手指が届いた。文字数に制限のある携帯メールで文章を送信する。原稿1本を打ち終わるまでに何10回も繰り返す。薬が効いている間のことだ。

保険医団体が発行する「月刊保団連」がエッセー欄に載せてくれた。「ぜひ読んでほしい。批評が聞きたい」。半ば字が読み取れないハガキが届いたのは6月。電話の会話も不自由。出版先を知るのに手間取る。気の毒だが、しつこく聞くしかない。「ホダンレン」と言っている。「どんな字？」と尋ねる。「ホケンのホ」「ダンタイのダン」。固有名詞を搾り出すように言う。

医師の定期購読誌で、市販していない。出版先に入手方法を尋ねる。編集者が対応してくれた。「原稿は200字ずつ携帯メールで届いた。半年かかりました。部分直しを何度も受信した。これも簡単にはいきません。筆者の並々ならぬ苦勞に報いようと、必死に対応しました」と振り返る。

3部作の最後は「直面した最後の現実」。熱意と「筆力」に頭がさがる。その思いを手紙にしたためた。返信のハガキが届く、太い字の宛先以外は読めない。直後に届いたのが訃報。看病疲れで体調を崩す妻と2人暮らし。葬儀は営まず、海に散骨してくれと言い残す。

どこかで、この原稿を見て笑っているでしょう。冥福を祈る。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
活動予定日

11月	7(木) 14(木) 21(木) 28(木)
12月	5(木) 12(木) 19(木)

- ◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約16haの里山林地（県有林）
- ◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分
 - ② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統
8:28発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統
8:36発JR奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

- ◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



- ◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。



- ◆連絡先：八木 順一

里山

11/7 協働活動日・アダプトプログラム

景観

11/7

里山林内の整備／薪割り／下草刈り
ユートピア：大和菌学研究所来訪

14 21 28

里山林内の整備／薪割り／下草刈り
榎木用コナラの伐採
ユートピア：松山平の草刈り、枯れ松処理

エコファーム

11/7

タマネギ、堆肥（チップ入れ）／耕耘畝作り
そば：収穫作業 果樹：下草刈り

14

タマネギ植え付け／冬畑に堆肥（チップ入れ）
そば：脱穀・整理・乾燥・発送
果樹：植樹準備

21

カボチャ畑の土地改良堆肥（チップ入れ）
ポカシ肥料作り／エンドウマメ・ソラマメ播種
そば：収穫後の畑整備 果樹：サクランボ植樹

28

堆肥（チップ入れ）／冬野菜、里芋収穫
そば：新そば祭り

11/7

整備：BC周辺の草刈り整備
ビオ：池整備 花：花生姜の剪定、ハナナス収穫

14

整備：実りの森草刈り整備
ミツバチ：下草刈り ビオ：池整備
花：土手花壇の植え込み、麦種蒔き

21

整備：BC周辺の草刈り整備
ビオ：西池生物調査
花：百日草撤去、畑作り、紫花菜種蒔き

28

整備：彩りの森草刈り整備
ミツバチ：下草刈り ビオ：池整備
花：茗荷園・大葉ギボウシ園刈り取り

パトロール

11/7

観察路整備、案内標識整備／倒木処理
丸太階段、手すりロープ補修、標識ペンキ塗り
ミーティング

14

観察路整備、案内標識整備
丸太階段、手すりロープ補修

21

観察路整備
丸太階段、手すりロープ補修

28

コース：4-1-2-3

行事案内 Part 1



11 月度歴史文化クラブ研修会のご案内

～和爾氏の実像：系譜と奥津城を探る～

塩本 勝也

良い季節です。ヤマト王権を支えた和爾氏の実像を追ってマニアックな7kmのコースを歩きます。

《実施要領》

1. 実施日：11月12日(火) 10時集合
2. 集合場所：JR 櫛本駅 改札口前 (雨天実施)
3. アクセス：JR：奈良 9:40 発—櫛本 9:50 着
近鉄：西大寺 9:31—天理乗換—櫛本 9:57
4. コース：櫛本駅—歌塚—柿本寺跡—和爾下神社—赤土山古墳—横穴式石室—東大寺山古墳—櫛本高塚公園—和爾坐赤坂比古神社—和爾坂下伝承地—白川橋バス停
5. 解散場所：白河橋バス停 15時解散予定
6. 持ち物：弁当、飲み物、雨具など
7. 申込先：青木幸子
8. 担当世話人：藤田秀憲 塩本勝也

《道すがら》

ワニ氏って、和邇、和珥、丸邇等々と記されていますがそのルーツは？名は本拠地の大和国添上郡にあった和邇庄や和邇坂などの地名に由来する。4～6世紀にかけて勢力を誇った豪族です。

記紀によれば、5代孝昭天皇の皇子、天足彦国押人命は和邇氏の始祖で皇別の始祖系統。開化・応神・雄略・継体・敏達などの八天皇に后妃を入れ天皇家の外戚として大きな勢力を有したが、政治史の表面に現れにくかった。なぜか？

本拠地から添上郡の春日に移り、春日氏を称し大宅、小野、栗田、柿本など15氏族に分枝した。小野妹子、柿本人麻呂などを思い出してください。また東大寺山古墳から出土の中平銘鉄刀の謎？

奥津城(オクツキ)をオクツジョウと読み、当時そんな城があったかな程度の会員(塩本)さんでも、東大寺山古墳群をゆっくり訪ね歩くと、いっばしの和邇氏通になりますよ。現地での説明を楽しみに、ぜひご参加ください。

12 月度月例研修会のご案内

大和三山を巡る(万葉歌人がこよなく愛した)

富井 忠雄

今回は国の名勝に指定された大和三山(畝傍山・香久山・耳成山)と藤原宮跡を巡るコースです。

橿原神宮の境内から畝傍山に登り、頂上から金剛・葛城連山・耳成山を垣間見ることができます。

特別史跡本薬師寺跡、飛鳥川などを通り香久山へ。頂上からは畝傍山、藤原京跡を眼下に眺められます。のどかな田園風景を進んで藤原京跡では、当時の国造りの偉大さに想いをはせ、最後は耳成山に登ります。見る場所によって姿の変わる三山を眺めながら歩く約10kmのコースです。

《実施要領》

1. 日時：12月3日(火) 近鉄西大寺発 8:38 (急行) 乗車—畝傍御陵前着 9:09
2. 集合場所：近鉄畝傍御陵前駅 9:15 改札口
3. 持ち物：弁当、飲み物、ハイキング靴、雨具
4. 雨天の場合：申し合わせ通り(60%以上中止)
5. 行程：近鉄畝傍御陵前 9時30分→畝傍山→本薬師寺跡→紀寺跡→香久山→藤原京跡→耳成山→近鉄八木駅 16時頃(行程約10km)
6. 世話人：中井弘・羽尻嵩・富井忠雄
7. 連絡・申込み先：富井携帯



大美和の杜展望台より大和三山



天香久山・万葉集巻1-2(舒明天皇)

行事案内 Part 2

自然教室・11月自然観察会



秋の奈良公園・紅葉狩り

辻本 信一

11月(霜月)を迎え、朝晩の冷え込みに、冬間近を感じさせる今日この頃ですが、自然観察会にとっておきの季節となりました。

11月の下旬となりますが、紅葉の時期を見越し、自然教室チームでは毎年恒例となっている奈良公園での紅葉見物(紅葉狩り)を11月27日(水)、下記要領にて実施いたします。

記

1. 日 時：11月27日(水)
午前10時～午後3時(予定)
2. 集 合：近鉄奈良駅 行基菩薩像前
3. 持ち物：弁当、お飲み物、(あれば) ルーペ
4. 雨天実施の有無：(会報誌記載)申し合わせ通り
5. 担 当：自然教室チーム
辻本/櫻木/山本(美)

以上

「ならやま」での活動を通じ、日々奈良の自然に親しまれている皆さまですが、最近、奈良公園に出かけられたことがありますか? 「いつでも出かけられる」の感覚が、つつい足が遠く原因となっていないですか? そういった方には、ぜひ、今回の奈良公園での自然観察会への参加をおすすめいたします。

昨年は、思いがけず目にした見事な百日紅(サルズベリ)の紅葉に感動しました。今回はどんな自然との出会いがあるか、ご自身の目でお確かめください。たくさんの皆さまのご参加、心よりお待ちしております。



【イロハモミジの紅葉】



【イチョウの黄葉】

第10回「まほろば新そば祭り」ご案内

秋も深まってきました。いよいよ「新そば」のシーズン到来です。今年の夏は10月まで暑さが続くなど、例年以上に天候不順が続き、「実りの森」のそば畑の生育は今一つです。それでも畑一面に咲く白いそばの花は可憐で美しいものです。



11月7日(木)に刈取りをして、乾燥・脱穀・選別・製粉を経て、「新そば粉」が誕生します。

本年度「まほろば新そば祭り」は、第10回目を迎えます。当日は、朝から「そばクラブ」のメンバーが総出で準備し、文字通り打ちたての新そばをご賞味いただきます。定番の「かき揚げぶっかけ蕎麦」のほか、いくつかのメニューを検討しています。ので、どうぞご期待ください。



秋の好日を「ならやま産の新蕎麦」で大いに楽しみたいと思っています。皆さまお誘いあわせのうえ、奮ってご参加ください。

1. 開催日：11月28日(木) (予備日12月6日)
2. 時 間：12時より13時まで
3. 参加料：300円
4. お持帰り：1パック500円(数量限定)
5. その他：お椀、箸をご持参ください

そば文化クラブ 寺田 孝

12月ならやま活動&行事予告

- * ならやま活動(木) 5日 協働活動日
- 12日 芋煮会 / 19日 迎春準備
- * 月例研修会
- 3日(火) 大和三山巡り(畝傍山・耳成山・香久山)
- * 歴史研修会
- 10日(火) 地元史と座学

2019年10月度幹事会報告

日時：9月24日(火)15:30~17:30
場所：奈良市ボランティアインフォメーションセンター
出席者：22名、欠席者：1名
(議事録よりトピックスのみ)

I 会長挨拶

・本日(9月24日)は創立記念日

II 事務局・会計報告

・会員数：168名(5名退会3名入会)
・8月度会計報告

III 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

・スズメバチの巣は9月2日に業者により駆除済だが、まだまだスズメバチは見かけるので注意
・10月はイベント(稲刈り、芋掘りなど)が多いので事前準備も含めて協力を

*以下詳細は、メール連絡、またはHPに記載。

- ・3か月スケジュール
- ・ならやまプロジェクト各グループ活動報告
- ・朝日親と子の自然環境教室
- ・佐保台小体験学習(稲刈り、脱穀)
- ・芋掘りイベント

IV 企画・助成金事業案件

・20周年記念事業編集委員会(9/14)
記念誌は記念事業内容全体を収録する
キャッチフレーズとロゴを募集(10~12月)
・助成金事業
下半期に「植樹」を計画
グリーンギフト助成金(本年10月から3年間)を申請予定

V 喫緊・提案事項

・新春講演会
1月26日(日)午前 木村全邦氏(森と水の源流館)を講師に迎えて計画する
・その他
マナー意識の高揚を周知する

VI 広報関係

・11月号会報誌編成と執筆者の確認
・「私のふるさと」の執筆に協力を

VII 報告・連絡事項

・活動報告と予告：会報誌参照
・11月度幹事会 10月29日

以上

◆ 申し合わせ ◆

*通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日19時前のNHKの天気予報(奈良气象台17時発)で、当該地域の午前の降水確率が60%以上の場合、中止とします。

お問い合わせ:八木

*通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。

*臨時活動日を月曜日にすることがあります。
(事前に担当役員から連絡します。)



<BRAVE BLOSSOMS (桜の戦士)>

日本がアイルランドに初めて勝った。その勢いは止まらず4連勝。隠れラグビーファンとしては驚きとともに狂喜したくなる。日本代表、外国人が半分・・・でも日本を選んだ(一度日本の代表になったら他国の代表にはなれない。そして、15人中9人が帰化している!)人たちの集団。チーム名は「BRAVE BLOSSOMS」(桜の戦士)。桜は春にパワーを全開して競って咲き誇り、散ったあとは他の緑と調和して整然としている。

思うにラグビーの試合で見苦しい選手間の争いをほとんど見たことがない。また、試合終了後のさわやかな交歓はそれまでの興奮からほっとした気持ちにさせる。ノーサイドの精神、「One for all, All for one」は戦いの場でも戦いが終わったあとも生きている。出身に縛られない代表チームの編成もその現れの一つかもしれない。

ともかく、本誌が発行される時には桜の戦士たちはどこまで突っ走っているだろう。楽しみだ。

発行:奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一

URL : <http://www.naranature.com>



編集チーム：青木(幸)、青木(芳)、澤田、千載、田代、戸田、坂東、山崎

<表紙写真>

初夏に子供たちが植え、この秋に子供たちが収穫した秋の実り